

# カードあれこれ

活動をしたまま終わるのではなく、そこで子どもが見付けたことや気付いたことを表現し、それを教師が価値付けることによって気付きを自覚することができます。

入学して間もない子どもたちは就学前の学習経験の差があり、書くことを苦手としている子も多いです。そのため、様々なカードの形が考えられます。

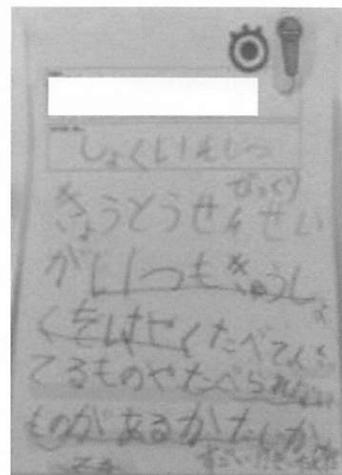
ここが  
ポイント

## カードを単純化・パターン化

A4サイズの画用紙を四等分した大きさで、白紙のものにすることで、絵や言葉など好きな方法で表現することができます。

毎回同じ形式にし、子どもにとって安心して取り組めるものにすることで、「もっと書きたいな。」という意欲を生んだり、書けたことへの自信につながったりします。また、カードに目や耳、手触りなどの感覚を表したマークを入れる方法もあります。

どの感覚を使ったのかを見るようにすることで、方法を意識しながら探検をするようになっていきます。部屋ごとや階ごとに意図をもってカードの色分けをすることも一つの方法です。



ここが  
ポイント

## 先生とカードを完成させる

カードに子どもの気付きが全て表れるわけではありません。子どもと対話し、見付けてきたことや感じたことを教師が価値付け、補助的に情報を付け足すことがとても大切です。

教師が積極的に関わり、子どもの思いに寄り添っていきたいものです。

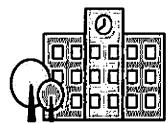


# がっこうだいすき

1ねん

くみ

なまえ



1. じぶんはここをしらべているよ！

**1かい** • **2かい** • **3かい**

2. じぶんは、このへやを しらべるよ！

へやの なまえ	へやの なかの ようす

3. がっこうたんけんの やくそくは？

**まもれた** • **まもれなかつた**

4. がっこうに くわしく

**なつた** • **まだなつていない**